

Dappe

地域おこし協力隊の鋸南ぐらし

うっちゃん、シテイライフ。

Leave me alone city life.

佐久間地区祭礼

こんにちは、地域おこし協力隊の室井です。
先日、佐久間地区の祭礼の撮影をしました。昼過ぎから夜まで同行させていただきましたが、昼と夜では祭りの雰囲気が大きく違うなとい

う印象でした。
昼は佐久間の豊かな自然の中を、太鼓や笛の音色を響かせながら進んでいく。写真を撮っている人も人と自然の一体感をなんとなく感じながらシャッターをきっていました。

一方夜は、暗闇に浮かび上がった、非日常的な空間に、人の熱と、懐かしい雰囲気を感しました。
どちらの雰囲気も自分にとっては新鮮で、シャッターを押す指が止まりませんでした。この魅力を、写真や映像で町外の人達に伝えたいと思います。

Dappe

発行元 鋸南町地域おこし協力隊
住所 AKARI(地域おこし協力隊拠点)
〒299-1902
千葉県安房郡鋸南町保田66-1
執筆 黒澤徹 清水多佳子 室井翼
編集 室井翼



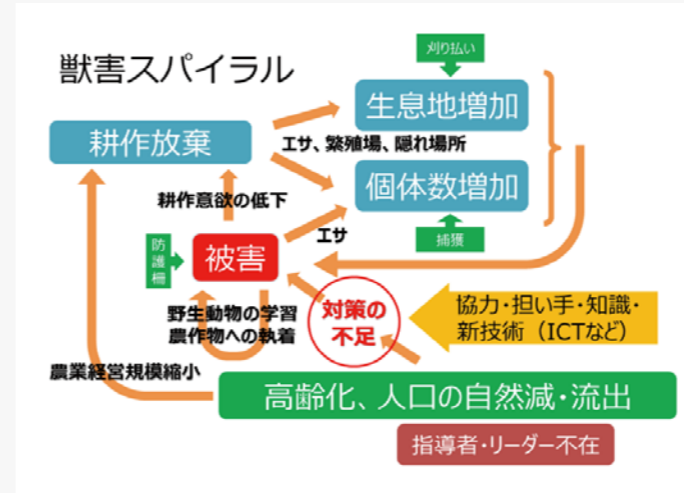
黒澤徹の 獣害の話

こんにちは！地域おこし協力隊、有害鳥獣対策担当の黒澤です。捕獲は進んでいるのに被害が減っていないとか、これ以上捕獲数が増えると担い手不足により現在の捕獲従事者への負担が更に増す、捕獲数が増えれば捕獲後の個体の処分についても検討しなくてはならない・・・など議論が必要な課題が生じてきます。

一部の銃猟ハンターさんの印象を聞くと、以前よりイノシシやシカの獲物(*1)は減っているという話もありました。個人的には意外な話でした。

ハンター目線では(狩猟対象の)野生動物の数は減っている、農業被害は必ずしも減っていない、担い手は不足しているが捕獲数は増えている、箱わなによる捕獲数がくくりわなによる捕獲と比べると相対的に減っている、キョンを効果的に捕獲する方法が見つからない、農地の被害面積は減っているがこれは耕作地そのものが減っていることや、農作物の被害金額が増えているのに被害感情が低下しないのは農地とカウントされない家庭菜園の取り扱いを含んでい

ないこと、イノシシなどの恰好の隠れ家となっているヤブが生い茂る耕作放棄地が増加していることが繁殖を後押ししていること、被害金額に表れない交通事故や人身被害の増加による生活不安、これらの現象の因果関係は？正のループや負のループは？そして解決につながるレバレッジポイント(小さな力でも大きな変化を起こせるポイント)「てこの作用点」のようなものは？データに基づいた科学的な分析も改めて必要でしょう。



国は、平成25年に10年でイノシシや鹿の個体数を半減させるという目標を立てました。個体数の把握やコントロールは困難でも、例えば、『5年、10年で、数値にあらわれる、また精神的な被害感情も含めて、鋸南町の獣害による被害を、ゼロ(*2)(あるいは「地域社会が持続可能なレベルまで低減させる」)にする!』という思い切った目標もあっていいと思います。許容可能な被害程度とはどんなレベルか?という考え方もあるかもしれませんが。対策にかけるコストと被害規模のバランスをとるという観点も必要でしょう。被害は多少あるし、対策は大変だけれど、地域ぐるみで取り組む活動に張り合いを感じたり、野生動物の気配が少しはある自然環境に親しみを抱けるとか、こんなことになるべく多くの町民の皆さんが思いを馳せることができるようなコミュニティづくりとは?など。そんな獣害対策に関する議論があってもよいと思います。漠然とした不安では、誤解による憎しみや怒りが生じかねません。議論を

行うことで問題や課題を認識し、前向きな気持ちになれることも大切なことかもしれません。

*1:ハンター目線での「獲物」が減っているという見方は、農作物等に被害を及ぼす有害鳥獣が減っているとイコールではありません。

*2:「被害ゼロ」とは、対象となる野生動物の生息数をゼロにするという意味ではありません。また、一切の被害金額がゼロというわけでもないかもしれません。「完全なゼロ」が理想的な姿なのか?という観点もあるかもしれません。社会的な課題は、常にあるものだし、課題があるから地域がまとまるというのも事実。ゼロになってしまえば対策や体制作りの知恵は途絶えることとなります。

文・写真 清水多佳子



「ビーチコーミングと貝殻アート」で環境問題を考える

～鋸南町の住民の取り組みに参加しました～

8月5日、千葉県鋸南町で、海岸にある貝殻を拾い、アート作品に仕上げる子ども向けのイベント「ビーチコーミングと貝殻アート」が行われました。貝殻だけでなく、海岸に落ちていくゴミやプラスチックを拾うことで、子どもに環境問題について知ってもらうことが目的。小学校1年生から5年生まで30人が集まり、イベントを楽しみました。私は取材兼、ボランティアアシタッフとして参加しました。このイベントを企画したのは、鋸南町でカフェ「海遊魚」を運営している東愛乃さん。教育委員会の協力があり、今回のイベントが実現しました。中央公民館に戻り、拾った貝殻を使い、アートの制作に取り組みました。最後に、東さんが子どもたちの前で、環境問題についてのレクチャーを行いました。「プラスチックは粉々になり、マイクロプラスチックになってしまいます。これは自然に分解されることはありません。魚がマイクロ

プラスチックを飲み込み、その魚を私たちが食べます。つまり、人間もプラスチックを食べているということになります」と、東さんが絵を見せながら話すと、子どもたちは静かに聞き入っていました。地元の海岸でゴミと貝殻を拾い、環境について学び、そしてアート作品を作る……。海のある鋸南町に住んでいればこそできる体験。一石二鳥ならぬ、「一石三鳥」の企画といえます。

地域限定型旅行業について勉強会をしました

8月16日、南房総エリアの地域おこし協力隊のミーティングを、保田駅前前の拠点「AKARI」で開催しました。鋸南町の地域おこし協力隊の黒澤徹さんを講師に、「地域限定型旅行業」の勉強会をしました。

地域おこし協力隊は長くて3年間の任期。そこで、任期後どうするかについて、地域

おこし協力隊同士で意見交換をしたり、勉強会を行っています。



年金者連盟のみなさまに向けて活動報告をいたしました

7月30日、鋸南町の年金者連盟のみなさまに向けて、「移住者から見た鋸南町」をテーマに地域おこし協力隊の活動報告を行いました。私は「観光」の担当なので、観光協会のホームページをリニューアルした話や東京で鋸南町のPR活動をしていることをお伝えいたしました。

町民のみなさまの前での活動報告、機会があれば今後も取り組んでいきたいと思っております。